

# 大会宣言

郵政民営化の是非をめぐって行われた2005年総選挙において、自民党は3分の2に迫る議席を獲得した。民主党を加えれば改憲発議に必要な議席をはるかに越える議席を占拠したことになる。1993年以来の、まさしく資本の側による、「政権交代可能な二大政党制実現のため」と称してつくられた小選挙区制が生み出した結果である。

一方、当時の日経連によって1995年に打ち出された「新時代の日本的経営」は今日あらゆる職場で貫徹されている。これに対して労働の側「連合」は無策である。「派遣労働法」の改悪の容認によって、労働者の雇用状況はまさしく急速に非正規化している。労働組合の組織率は低下の一途である。

NTTにおいては2002年の11万人大合理化によって作りだされたアウトソーシング会社においては、正規から非正規への雇用の置き換えが急速に進展している。成果主義賃金の導入が押し進められ、労働者同士を競争に駆り立てている。

こうした情勢において、NTT「構造改革」に抗して結成された、われわれN関労の果たすべき役割は限りなく大きい。急速に進行する雇用の流動化、賃下げに抗するため、OS会社へN関労の旗を立てることが急務となっている。

われわれは結成以来3年半、これまでNTT東西本社と闘う体制、千葉などOS会社と闘う体制をつくってきた。この成果を確認すると共に、この戦線をさらに広げ全国のOS会社と闘う体制づくりをめざす中期路線の確立めざす。

こうした、「まともな労働組合」の旗を全国各地のNTTグループの職場にうちたてることをつうじて、平和憲法の改悪を許さず、人間らしく働き続けられる社会をうちたてることを、ここに宣言する。

2005年10月1日

NTT関連労働組合協議会第5回定期大会